

2018 VIDESクリスマス会

2018.12.16



11月から少しずつ準備を始めたクリスマス会。去年から引き継ぐ企画や新しい企画を部員と出し合い、徐々に内容を決めていきました。各担当でクリスマス会までに買い出しや装飾づくり、司会・ハンドベルの練習など、やることをリストにまとめ、協力して作業を進めていきました。なかなか部員の予定が合わず、作業を思う通りに進めるのが大変でしたが、クリスマス会の準備を通して、できる人が率先して喜んで作業をするというボランティアの精神の重要さを感じることができました。

当日は、主にVIDES会員の方が来てくださり、想像以上に喜んでくださり、嬉しかったです。特にクリスマスクイズは大盛況でした。グループ対決でした



が、これが思った以上の盛り上がりで、また来年も参加者が一緒に楽しめる企画を用意できたらと思いました。また、ビンゴ大会は人数より景品が多かったのも、たくさんのクリスマスプレゼントをお渡しすることができました。ビンゴ大会では、「ビンゴ!」と叫びながら、プレゼントを取りに来る子どもたちの嬉しそうな笑顔が、クリスマス会の雰囲気喜びで包んでくれました。



武内良太郎さんの素敵なバイオリン演奏もクリスマス会を盛り上げてくれました。

今回はジュニアメンバーが作ったクッキー、バーチ・ディ・ダーマの他に、レストランのメンバーにも美味しい物を沢山作っていただき、とても充実したラインナップが実現しました。その他の場面でもVIDESクリスマス会に沢山のご協力をいただき、この場をお借りして改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。また、来年も是非よろしく願いいたします。(永田 真実)

ハッピーハウスの活動

毎週 火、木曜日 17時～20時

小学生の子どもたちと一緒に遊び、勉強、ごはんを共にします。子どもたちや親が楽しく安心していただける居場所作りを心がけています。シスター2人と主に大学生のスタッフが活躍しています!

林 真理恵

私はハッピーハウスが発足した時から大学3年生の今までスタッフとして活動しています。はじめの頃は手探り状態でしたが、じっくり時間をかけて子どもたちと接していき、共に過ごすことで信頼関係を築き、みんながハッピーになれる居場所になっているのではないかと感じます。

週に一度ハッピーハウスに行くとおかえりなさいと必ず誰かが迎えてくれるのがもう1つの家族のように感じられます。また、子どもたちのためだけではなく私たちスタッフの居場所でもあると強く感じています。

母校である星美を卒業してもスタッフの先輩、後輩、同期に会えたり、シスターに相談に乗ってもらったりと、現在は就職活動で落ち込むこともあり逆に子どもたちから元気もらっています!

大迫 心

一昨年の夏から、VIDESの会員として主にハッピーハウスで活動させて頂いています。まだ一年半しか経っていませんが、周りも、そして自分自身も大きく変わりました。

当時誰かの役に立ちたいと思っていたところで、

ちょうどシスターにお声をかけて頂き、「よし、やるぞ!」という意気込みで始めたのは良いものの、料理はできないし、慣れたスタッフに遅れをとって、自分がここにいる意味はあるのだろうか?と迷った時期もありました。

しかし唯一の男性スタッフだった私は、子供達が求めている兄のような立場でそれぞれに接し、そこにいるだけで役に立っているのだと気付きました。というのも、ここに来る子供たちは皆一人っ子や長男長女で、相談したり甘えたりする対象が欲しかったのです。肩車をしてあげられるようなスタッフは、他にいませんからね(笑)

子供たちの成長にも驚かされています。可愛いけれども、あんなに落ち着きがなくて自分勝手だった彼らが、協調性を身につけ他人に配慮できる、思いやりのある子供たちになってきました。子の成長に対して親が抱く、嬉しくもちょっぴり寂しいような気持ちも、分かる気がします。

満たされているのは子供達だけではなく、私たちスタッフも、子供たちを弟妹のように、そしてシスターたちをもう1人の母親のように思い、共に過ごす時間を心地よく感じています。今は子供達のためというよりも、むしろ自分の心の安定のために自らハッピーハウスに通っているような感じです。



赤羽×星美クリスマスフェスタへの参加

2018年12月23日に赤羽星美学園で初めてクリスマスフェスタが行われました。このクリスマスフェスタは、赤羽地域の方々と一緒に作り上げた企画で、学校関係者以外の多くの地域の方々と一緒に楽しい時間を過ごすことができました。

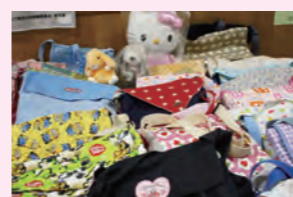
私たちVIDESは、クムパニスさんのパンとseiboのマラウイ産のコーヒーや紅茶を販売しました。放課後や星美彩でも販売させていただいているクムパニスさんでは、クリスマスということで数種類のパンに加えてドイツのクリスマスの伝統菓子であるシュトーレンも販売しました!

初めての企画だったので、集客を心配していましたが、どれも好評であつという間に売り切れてしまいました。当日は雨も降り、とても寒かったです。そこにいた全ての人たちの笑顔と優しさに包まれ温かい気持ちになりました。そして、これからも地域の人たちとの関わりを通して赤羽を盛り上げていきたいと思えます。(石橋 千佳)



今年も「愛のポシェット」を送りました!

— 目黒星美学園小学校の取り組み —



目黒星美小では、カンボジアの子ども達のために2005年から「愛のポシェット」(文房具や日用品を入れた手作りポシェット)を送っています。

2009年にBosco Sunday School(以下BSS)が開設されてからは、BSSと近郊の公立ポー村小学校支援として継続し、物資をVIDESボランティア活動の参加者が直接運ぶという連携プレーで、子ども達を通して保護者も一緒

に取り組む「ボランティア教育」を行っています。

現地の必要に応じて、ポシェットをショルダー式に変えたり、今年度からは衣類や靴、ぬいぐるみも集めたりしました。物資の分類作業は6年生が行います。今回は、活動の様子をカンボジアの友達に伝えたいと自主的に冊子も作成しました。その他、最も支援が必要なBSSの子ども達の学資支援として学期に1度の「カンボジアデー」を行い、おにぎり弁当にして献金を集めています。

